



カケハシ・プロジェクト 有識者とのオンライン意見交換会 フォローアップ事業の記録

1. プログラム概要

【目的】有識者とカケハシ・プロジェクト過去参加者（同窓生）代表とのパネルディスカッションを通じて、カケハシ・プロジェクトの事業成果を可視化し、また有識者や同窓生から事業への提言や助言を得ることで、今後の事業運営に活かしていくことを目的として実施しました。また、米国、カナダの同窓生たちがオンラインで一堂に会し、ネットワーキングを実施することで、日本への関心を持続させるとともに、同窓生同士のネットワークを強化することも目的として実施しました。

【実施日】2024年3月22日（金曜日）

【訪問地】東京都

【参加者】有識者 3名、事業拠出先 2名、同窓生 42名 計 47名

● パネリスト

《有識者》

1. 駐日米国大使館 教育交流担当官 サラ・ベロウソフ 氏
2. 駐日カナダ大使館 広報部 一等書記官 スティーブン・ラポイント 氏
3. 米国教育省 計画・評価・政策開発部 政策・プログラムアドバイザー
エンケムジカ・オフアディレカラサズ 氏（第27期マンスフィールドフェロー）

《事業拠出先》

1. モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団 理事長兼 CEO
フランク・ジャヌージ 氏
2. カナダ・アジア太平洋財団 プログラムマネージャー ショーン・ジョーンズ 氏

《同窓生代表》

2023年度招へい（米国・カナダ）プログラム参加者4組 計6名

1. カーティス高校 ジェイダ・ファウンテン 氏、グロリア・サン 氏（高校生招へい第7陣）
2. コーネル大学 ナタリー・フリードマン 氏（若手研究者招へい第2陣）
3. ニューマーケット高校 テレンス・シム 氏（ジャパンプール招へい（カナダ））
4. Osheru Education 社長・Light Tree Garden Society 会長 アシュリー・ジョン 氏、
Porte Global Consultancy 代表取締役 フランコ・ング 氏（カナダ若手リーダー招へい）

- カケハシ・プロジェクトの同窓生（2016年度～2022年度の参加者） 計36名
内訳：米国 25名、カナダ 11名（高校生～社会人）

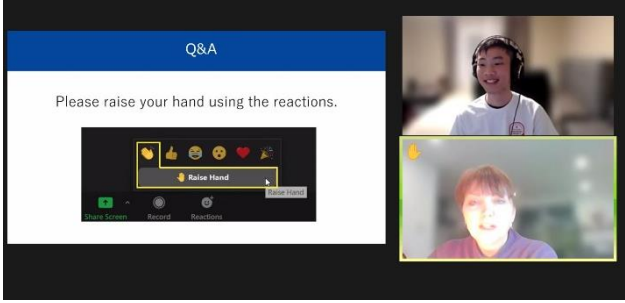
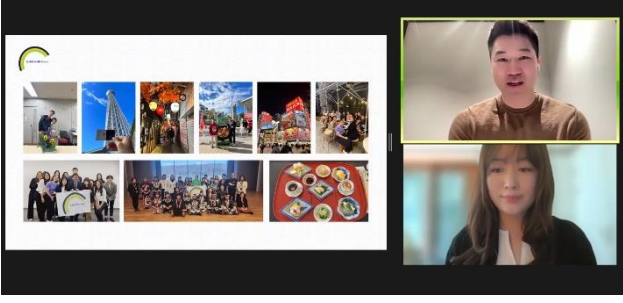
2. 次第

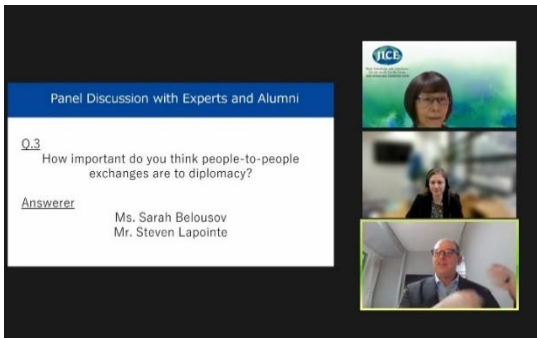
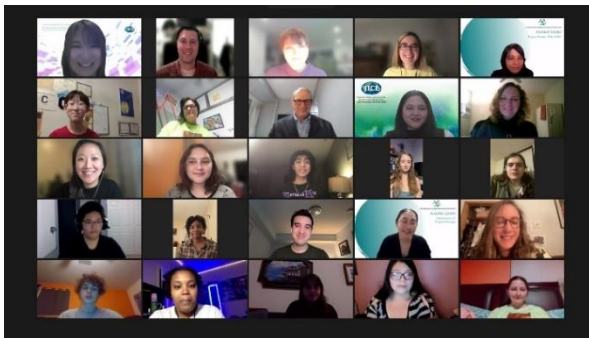
第一部 有識者会議

- (1) 有識者及び事業拠出先関係者紹介
- (2) 開会挨拶
- (3) カケハシ・プロジェクト事業概要説明・今年度事業の報告（JICE 事務局）
- (4) 同窓生代表からの発表・質疑応答・有識者及び事業拠出先関係者からのコメント
- (5) パネルディスカッション
 - ① 同窓生にとってカケハシ・プロジェクトの意義について
 - ② 同窓生ネットワーク強化のための工夫について
 - ③ 外交における人的交流の重要性について
 - ④ カケハシ・プロジェクト継続のために重要だと考えられる要素について
- (6) 有識者及び事業拠出先関係者による総評
- (7) 閉会挨拶
- (8) 記念撮影

第二部 同窓生ネットワーキング

2. 記録写真

	
カーティス高校 ジェイダ・ファウンテン氏、グロリア・サン氏発表の様子	コーネル大学 ナタリー・フリードマン氏質疑応答の様子
	
ニューマーケット高校 テレンス・シム氏質疑応答の様子	Osheru Education 社長・Light Tree Garden Society 会長 アシュリー・ジョン氏、Porte Global Consultancy 代表取締役 フランコ・ング氏発表の様子

 有識者と同窓生とのパネルディスカッション	 記念撮影
---	--

3. パネルディスカッションでの意見（抜粋）

■ 同窓生にとってカケハシ・プロジェクトの意義について

・カケハシ・プロジェクトとは、「責任」です。カケハシ・プロジェクトは、自身のグローバルシチズンとしての役割を再考する機会になりました。世界平和のためにも、日本と米国の絆を深めるためにも、二国間が文化交流をすることはとても重要なことだと考えます。また、このような国際社会の時代に生き、権利を与えられた者として、行動をおこす責任があると思います。例として、2011年の東日本大震災の際に『トモダチ作戦』として米国は日本を支援しました。それは日本に行ってみたいという私の背中を後押ししました。全く異なる文化を勉強し共有することはとても大切なことだと思います。

・カケハシ・プロジェクトとは、「繋がり」です。プログラムへの準備や参加、帰国後のアクション・プランの実施を通して、全ては人々と繋がっていることを実感しました。この経験を振り返ると、いかにカケハシ・プロジェクトが私をたくさんの人々に繋げてくれたかが分かります。他の州の高校生だけではなく、日本で出会った様々な人々との繋がりは、本当に素晴らしい経験でした。日本語の勉強のために、日本人の友達が欲しいとずっと願っていましたが、今はたくさんの方がいます。世界の人々は違った場所、異なる文化で育ちますが、カケハシ・プロジェクトはそのような人たちと私を繋げてくれました。

・カケハシ・プロジェクトは、日本との絆と理解を深め、日本とカナダの関係性をより良いものにする機会だと考えています。元々大好きだった日本のプログラムに参加出来ることは、参加者として対外発信するというミッションもミッションという認識はなく、とても素晴らしい経験でした。また、カケハシ・チーム、カケハシ同窓生委員会の皆さんの尽力に感謝しています。カケハシ・プロジェクトは、新しい友達、視野、経験、知識、ネットワーク、将来への展望を与えてくれました。カケハシ・プロジェクトは私たちと日本を繋ぎ、充実した有意義な経験を提供してくれました。

■ 同窓生ネットワーク強化のための工夫について

・同窓生は哲学、芸術、シンクタンク、科学者等、様々な分野で活躍しています。同窓生の在住地域で、日本と同窓生が活躍する分野を関連させた同窓会イベントを開催出来ると、とても良いと思います。例えば、アーティストが日本の伝統的な染物について学べるようなイベントです。そのような同窓会イベントは、同窓生同士のネットワーク強化に役立つと考えます。

・カケハシ・プロジェクトに参加して、日本社会での自身の興味や専攻する分野に関する気付きを得ました。具体的には、東京都庁職員との意見交換会や他の参加者との交流の中で、移民や先住民族への教育プログラムについて学びました。参加者同士が共通して興味があるテーマに関する中長期的なプログラムを開催することが出来たら、参加者自身も知識やスキルでプログラムに貢献でき、更に強固な架け橋を築くことが出来ると考えます。

・カケハシ・プロジェクトに参加して大切だと実感したことは、カケハシの同窓生の仲間や関係者に、「尋ねることを恐れない」ことです。頼ること、聞くこと、尋ねることによって得られることもたくさんあり、参加者の責任として、皆さんに恩返しするためにもとても重要です。私が同じプログラムの参加者と素晴らしいイベントを開催出来たことは、お互いを信頼し、協力出来たからです。他の方が発言されたように、カケハシ同窓生は多様性に富み、様々なバックグラウンドを持っている方が多いため、プログラムに貢献出来ることも多くあると考えます。そして、そこから別の繋がりも生まれると思います。そのため、これからも、同窓生同士がお互いに頼り合い支え合う関係性が続くといいと思います。

■ 外交における人的交流の重要性について

・私も含め大使館関係者は皆、人的交流が外交にとって価値があるものだと認識しています。米国側の私たちも、数週間後に岸田文雄内閣総理大臣が米国を訪れることをとても楽しみにしています。本日、皆さんのプレゼンテーションを楽しく拝聴し、カケハシ・プロジェクトについてもっと深く知りたいと思いました。今日のセッションでは、短期間のプログラムが、長期的な日米関係の発展に寄与しているということを強く認識しましたし、私たちは「日米のパイプラインを支援する」ために何が出来るかいつも考えています。米国側・また日本側が政府レベルですべきことは、カケハシ・プロジェクトのように日本と米国の学生や若手社会人が交流し、繋がる事が出来る機会をもっと増やすことだと考えます。

・人的交流は外交にとってとても重要です。現在、日本とカナダの人的交流の多くは、姉妹都市同士での交流等、古い外交形式の上に成り立っていると考えます。しかし、カケハシ・プロジェクトはたくさんの若者を対象としており、カナダの若者が日本を訪れ、日本の若者がカナダを訪れることで、両国の絆を深めることが出来、それこそがたくさんの恩恵を受けられる部分であると考えます。

■ カケハシ・プロジェクト継続のために重要だと考えられる要素について

・3つ提案があります。1つ目は、このような人的交流プログラムの価値が、政府や教育機関だけでなく、民間団体からも認知される必要があるということです。パナソニック等の多くの企業は視察を受け入れてくれていますが、それは参加者のキャリアや将来にとってとても意味のあることです。そのため、より民間団体からの支援が必要と考えます。2つ目は、皆さんのプレゼンテーションからも分かるように、SNSがいかに重要であるか、そしてそれがカケハシ・プロジェクトの効果拡大に貢献しているということです。若い世代にとってSNSはなくてはならないものでありもっと活用すべきだと考えます。3つ目は、本日、多くの同窓生がネットワーキングの重要性を話してくれました。カケハシ同窓生のネットワークを持つことが、JETプログラ

ムやフルブライトプログラム、また他の文化交流プログラム等の、別のネットワークに繋がり、それらがカケハシ・プロジェクトの効果拡大に繋がると考えます。例えばワシントン DC には、若手社会人が月に一回集まり、寿司を食べながらお互いの日本での経験や思い出を語り合う会があります。カケハシ・プロジェクトもそのようなネットワークに繋がることが出来たらとても素晴らしいと思います。

・やはり民間団体にもっと関わっていただくこと、同窓生のネットワーキングを強化することがとても重要だと考えます。10 年近く前の同窓生から含めて私は毎月のように、「どうすればもっとカケハシ・プロジェクトに同窓生として関わられますか？」などの連絡をたくさん貰います。私たちはパンデミック中に、同窓生ネットワークを強化することが出来ました。様々なキャリアや分野から、スキルや才能に溢れた素晴らしい同窓生が集まっています。そんな同窓生同士の関わり合いを継続することはとても大切だと思います。また他にも多くの同窓生から、「日本で働くことや、教育を受けるためにはどうすれば良いですか？」「同窓生として何か今出来ることはありますか？」と聞かれます。そのため、カケハシ・プロジェクトの次のステップとしてプログラムを検討し、そのような人々を誘導することで、更に日本とカナダの関係を深めることに繋がると考えます。

・2 つ重要なことがあると考えます。1 つ目は、カケハシ・プロジェクトの意義と効果についてより広めることです。カケハシ・プロジェクトを知らない人も多いと思いますので認知してもらうことや、SNS を活用して政策立案者に訴えかけることも重要だと考えます。政策や予算の決定を行う際に、カケハシ・プロジェクトが重要であるという「根拠」が必要です。本日登壇してくれた素晴らしい同窓生代表の皆さんが、その一つとして挙げられます。それをいかに政策立案者に明確に示すかを考える必要があります。2 つ目に、同窓生がその後どのように関わってくれるかがとても重要です。私たちが彼らに更なる人的交流の機会を与えることは、パイプラインを強化し、世界が良くなることに繋がります。そのような場を設けるためにも、このような素晴らしい若者が、より安全で安定、寛容な世界作りに貢献する行動を取っていること、そしてカケハシ・プロジェクトへの参加がその契機になっていることを、質と量に富んだデータを通して明確に示すべきです。

4. 同窓生の感想（抜粋）

◆ 米国 社会人

カケハシ・プロジェクトの同窓生たちの話を聞くのは本当に楽しかったです。特に高校生の話は興味深かったですし、日本を訪れた若い人たちの視点も興味深いものでした。日本のロボット工学の話も良かったです。発表者の皆さんはとても上手で、日本訪問や、それが自身にとってどのような意味があったか、素敵な写真を示しながら話してくれました。また、ネットワーキング中に、以前会ったことのある他の同窓生と再会することもできました。このプログラムに感謝しています。ありがとうございました。

◆ 米国 大学生

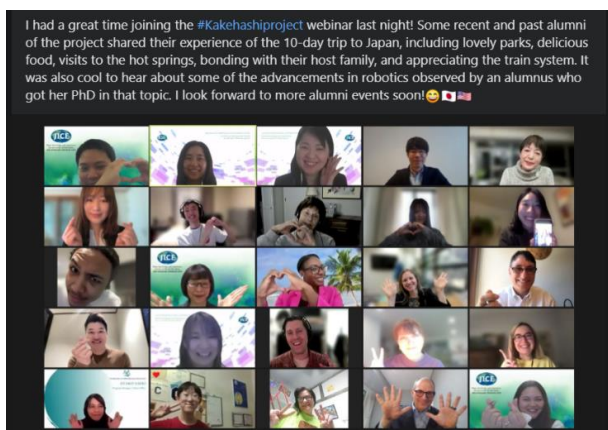
本イベントでは、同窓生の発表の中で共有された体験談がとても興味深かったです。それぞれが日本訪問について独自の視点を示していました。その一部を私自身の訪日プログラムの経験と

重ね合わせる事ができ、発表はさらに楽しいものになりました。また、主催者の進行の仕方がとても良く、整理されていて親しみやすいと感じました。

◆ カナダ 大学生

カケハシの同窓生代表たちは、カケハシ・プロジェクトで日本を訪れた際の個人的経験を伝え、その経験を今後のキャリアや人生にどのように活かしていきたいかを共有してくれました。

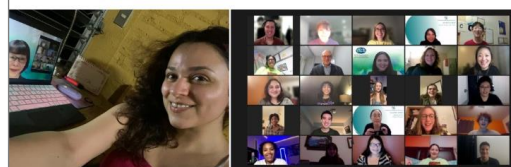
5. 参加者の対外発信（抜粋）



2024 年 3 月 23 日（Instagram）

昨晚、カケハシ・プロジェクトのオンラインイベントに参加してとても楽しい時間を過ごしました。同窓生代表が、素敵な公園、美味しい食事、温泉へ行ったこと、ホストファミリーとの絆、鉄道の素晴らしさなど、10 日間の日本滞在の体験を話してくれました。また、ロボット工学の分野で博士号を取得した卒業生から、ロボット工学の進歩について聞くことができたのも素晴らしかったです。近いうちに、更なる同窓生イベントが実施されることを楽しみにしています！

This past Thursday (22/03) I was fortunate to join Japan International Cooperation Center (JICE)'s "Prospects of KAKEHASHI: Roundtable Discussion with Experts and Alumni" virtual event. Here I had the opportunity to learn from the individual experiences of Kakehashi alumni that recently completed the program (#Kakehashi2023). As a (#Kakehashi2022) alumna myself, it was astonishing to acknowledge that these most recent participants of the Kakehashi project were left with the same sentiment upon finishing the program, as us, participants of past year's. This is, a sentiment of closeness and willingness to further contribute to strengthening the important US-Japan relationship. In other words, to use our knowledge and understanding of both cultures to BRIDGE over any differences that may prevent this valuable international cooperation. Furthermore, as a Latin woman who attended this virtual event from my home country, Nicaragua, this aim of being a bridge through cultures couldn't resonate harder with me. Thank you, JICE for these opportunities that contribute to enriching our cultural understandings. #JAPANMOFA



2024 年 3 月 23 日（Instagram）

先週の木曜日、幸運にも JICE 主催のオンラインイベント「有識者とのオンライン意見交換会」に参加することができました。本年度のカケハシ・プロジェクトに参加した方たちの経験を聞く機会を得ました。2022 年度の参加者として、2023 年度のカケハシ・プロジェクトに参加した人たちが、プログラムを終えて、私たち過去の参加者と同じ心情を抱いていることに驚きました。親近感が湧いたと同時に、重要な日米関係の強化にもっと貢献したいという意欲をもっていることです。言い換えれば、貴重な国際協力の妨げになりうる両国間の相違を乗り越える橋渡しとなるために、自身が持つ日米両文化への知識と理解を活用するということです。さらに、母国ニカラグアからこのオンラインイベントに参加したラテン系女性として、文化の架け橋になるという目的は、強く心に響きました。私たちの文化的理解を豊かにするために貴重な機会をいただき心から感謝しています。

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）